

## A の自立活動について

H16.5.7

- 1 中学部までの本生徒の実態（自立活動に関連：中学部個別の指導計画より抜粋）
  - 〔1 健康の保持〕療護園ではきざみ食を自分でスプーンを持ってすくって食べる。ほとんどかまわずに飲み込む。全量を摂取。学校では一切食べない。排泄は便器に座るのに抵抗がある。2時間おきに定時排泄トレーニング中。
  - 〔2 心理的な安定〕表情が豊か。行動を抑制されたり気持ちが高揚すると大声を出したり、自傷他傷行為がある。自分の興味のあるものには意欲的に取り組むが嫌なことに關しては騒いだり受け入れられない。
  - 〔3 環境の把握〕触ったり触られたりすることに敏感。手が汚れるのを嫌う。
  - 〔4 身体の動き〕2年の3学期よりPCWで登校。室内では四つ這いで移動。緊張があり、気持ちが高揚すると突っ張り下肢は内転する。座位は安定。
  - 〔5 コミュニケーション〕2～3語文の言葉で受け答えできるが、違う答えが返ってくることがある。まわりの反応を楽しむ面がある。自分の意志を言葉や表情で表せる。
  
- 2 目標（短期・長期）
  - 〔長期〕・定時排泄の定着を図る。〔1 健康の保持（1）〕
    - ・情緒の安定を図り、学習を効果的に行う。〔2 心理的な安定（1）〕
    - ・独歩に近い形で移動する。〔4 身体の動き（4）〕
    - ・状況に応じた適切な会話ができる。〔5 コミュニケーション（5）〕
  - 〔短期〕・定時にトイレで座る習慣をつける。
    - ・学校生活の中で落ち着ける時間や場所を見つける。
    - ・PCWによる移動を日常に取り入れる。
    - ・物の受け渡しを通しての会話を繰り返す。
  
- 3 実践
  - 〔1 健康の保持（1）〕登校後1校時の後半と昼食後5校時前をトイレ指導にあて、便意にかかわらず便器に座るよう練習した。指導開始は平成15年9月から。開始当初は座る事さえ嫌がり2～3分が限度だったが、1ヶ月後には15～20分は座れるようになった。その後、トイレでの大便ができるようになり（通常はオムツ）、半年間で22回成功、2回失敗、という結果となった。現在では習慣となっており、特に指示しなくてもすすんでトイレへ行くようになった。
  - 〔2 心理的な安定（1）〕社会的に望ましくない行為（特に他傷・大声を出す）は絶対に許されない、という気持ちで接し本生徒が落ち着いている状況下で繰り返し言い聞かせた。そしてパニックになったりその兆候があった時には、素早くその場から離し、一人になれる場所で落ち着くのを待った。また好きなもの（ピカチューの本や英語のビデオ）を頑張った時には堪能でき、わがままを通そうとした時には味わえない、というルールを徹底した。時にはスヌーズレンで心の平安を味わう等、本生徒の過ごしやすい場所作りを行った。現在では大きなパニックは見られなくなり、安定した気持ちで学校生活全般に取り組んでいる。
  - 〔4 身体の動き（4）〕教室内は四つ這いでも良い、というルールを設定し、それよりも外に行く時はPCWで行動するように練習を開始した。入学当初は約5分程度しか継続して乗ることはできなかった上にPCWに乗ること自体を嫌がったが、2ヶ月後には校内ならばどこへでも自主的に乗って移動できるようになった。脚力強化のために設定したコース（スロープを昇り階段を降りる）は5月には約20分かかったものが、半年後には5分でこなせるようになった。現在はこのコースを4周するか、両手つな

ぎ歩行で2周している。また下校時には階段で2階に昇っている。療護園の作業療法士からは「足が内転しているので、できたらあぐら座りで股関節を拡げる運動を」との指示があったが、本人の激しい抵抗にあい未実施。

〔5 コミュニケーション(5)〕本生徒の好きな物(英語のビデオ、ポケモンの本等)やコップ等日常生活に必要な物を、指導者と受け渡しする機会を多く設定し、その度に適切な言葉遣いで会話できるように練習を重ねた。「水~!」等と言う時には「ん?」とこちらが返し「お水下さい」と訂正できるまでひたすら待った。あいさつに関しては、元々大人との会話を楽しむことが大好きなため、日本語でも英語でも良いので会話のやりとりが成立するよう練習した。例えばあいさつをしてもらった時には必ず返事をする、また、すすんで大人や友だちにあいさつする、といった基本的な行為の繰り返しを実践した。現在では物の受け渡しでのやりとりは気持ち良くできるようになった。また、あいさつは充分すぎるほど達成できていると思われる。

#### 4 全般的な変容

本生徒の将来を見据えた時に、入所施設という選択肢しかないため、その施設で快適に過ごす術を身に付けることが自立活動の優先課題と考えた。そのためには自立活動5区分22項目の中でいくつかの項目に的を絞り、効果的に学習を進める必要があった。上記の短期目標に関しては、十分な変容が見られ、そのことにより本生徒自身も一日あるいは長期の見通しを持って安定した学校生活を送ることができており、学習効果を高めることができている。学校職員からも本生徒の本来持っている可能性を認めてもらい、今後の指導に生かすことができつつある。このように本生徒自身が主体的に快適に学習活動するための技能・態度・習慣・環境の基盤が培われつつあると言える。

#### 5 今後の展望

(長期目標)

- ・ 定時排泄の定着を図る。〔1 健康の保持(1)〕大便に関してはほぼ心配ないので、尿意を表現するという課題に取り組んでいきたい。
- ・ 情緒の安定を図り、学習を効果的に行う。〔2 心理的な安定(1)〕特定の指導者のみの指示に従えるのではなく、どの指導者に対しても安定して指示に従えるような態度を養いたい。
- ・ 独歩に近い形で移動する。〔4 身体の動き(4)〕PCWは完璧にこなせるのでロフストランドクラッチを徐々に使えるようにしたい(園訓練課には相談・依頼済みで、合意の元進めていきたい)。